

女子大学生のヘアスタイル選好とパーソナリティの関連

九 島 紀 子*¹

Relationship between female university students' hairstyle preferences and their personalities

KUSHIMA Noriko

Abstract

Since it could hardly be said that sufficient studies on hairstyle have been done in the field of social psychology, basic research on hairstyle is considered to be required. In this study, we conducted a research on hairstyle of female university students to investigate the relationship between their preferences on hairstyle, personalities, and values. Consequently, we found that they preferred unlayered, long hair with bangs and that most of them actually had such a hairstyle. Since it was suggested that their preferences on hairstyle was affected by bangs, layers, and hair length, we examined the difference between their personalities caused by these differences and their values. As a result, we found that part of their personalities and values differed depending on their hairstyle of bangs, layers, and hair length.

[Keywords] Hairstyling, Hairstyle, Personality, Value

キーワード：ヘアスタイリング、ヘアスタイル、パーソナリティ、価値観

はじめに

ヘアスタイリングとは

髪の毛を切る、染める、整えるなどといった行為は、身体加工、化粧品に含まれ、その中でも髪の毛のメイクアップとして分類されている。ヘアスタイルをつくることや髪型を整えることなど、頭髪（毛髪／ヘア）に関することを本研究では、ヘアスタイリングと呼ぶこととする。

ヘアスタイリングの歴史は古く、古代エジプト時代には様々な素材による多くのデザインのかつらが作られていたことが知られる。日本においても、縄文、弥生時代の土偶や埴輪から、多くのヘアスタイルや頭髪への装飾物が存在していたことが分かっている。そして近代まで、ヘアスタイルは、性別や年齢、身分や職業の違いまでも表すものであった。国の制度により、ヘアスタイルも管理されてきた歴史がある。自由の国、アメリカでさえ1960年代に入っても美容監査局なるものによって、承認されるのはパーマやカーラーによって形作られヘアスプレーで固めるヘアスタイルだったという。そこに革命を起こしたのが、現代においてもヘアモードの中心にある、故ヴィダル・サスーンである。マックラケン（1998）は著書『ヘア・カルチャー』の中で次のように述べている。「サスーンは女性の髪型との関係を変えている。1990年代には、ヘアカットによって自己を変化しようということはみんなが受け入れている。一中略一サスーン以降、ヘアカットは自分自身の一部となっていく。P.87」このように、ヘアスタイルは、統制されるものから、マックラケン（1998）の言葉を借りれば、自己デザインの道具の1つとして変化してきている。

ヘアスタイリングの現状

多くの女性が自分自身のヘアスタイルに関心を寄せ、実際にヘアスタイルに寄与する行動を取っていることが示され

* 1 立正大学心理学部博士研究員

ている。リクルートライフスタイル（2017）が15～69歳の男女7,700名（女性6,600名、男性1,100名）を対象に美容への意識について、インターネット調査を行っている。その中で、外見の改善、維持のためにお金と時間を使いたいポイントをたずねた結果、女性は髪型に最もお金と時間を使いたいと回答している。またリクルートスタイル（2015）は、15～69歳の男女7,700名（女性6,600名、男性1,100名）を対象に美容行動について幅広く調査を実施している。美容関連施設の利用経験について、女性の場合、美容室の利用経験者が87.4%と最も多く、エステサロン21.9%やネイルサロン19.3%、フィットネス施設18.8%などの利用者数を大幅に上回っていることを明らかにしている。また、自宅での手入れの状況についても、ヘアトリートメントとヘアカラーを行っている人が60%を超え、その他の顔や体の手入れよりも実施者数が多いことを明らかにしている。

つづいて、理美容室の利用状況、自宅でのヘアスタイリングの状況について見ていく。まず、理美容室の利用状況について、インターワイヤード株式会社（2017）は、20代以上の男女4,057名（男性2,454名、女性1,603名）を対象に、ヘアスタイルに関するインターネット調査を行っている。その中で、理美容室の利用頻度について、女性は、理美容室利用者が4.3%、美容室が81.8%、それ以外（自分でなど）が13.9%となっていることを明らかにしている。また、リクルートライフスタイル（2015）が20～69歳の男女7,000名（女性6,000名、男性1,000名）を対象に行ったインターネット調査では、美容室の女性利用者が受けている施術内容の利用率は、カット98.0%、カラー46.2%、トリートメント29.2%、パーマ23.2%、ヘッドスパ13.3%の順で、年間利用回数は、4.61回であり、1回あたりの利用金額は、6,462円となっている。次に、自宅におけるヘアスタイリングについて、インターワイヤード株式会社（2017）の調査結果を見ていくと、ヘアスタイリングにかかる時間は、女性の場合、10分未満が73.4%、また、スタイリング剤については、スプレー、ミスト、オイルなどの使用頻度が高いことが明らかにされている。

実際のヘアスタイルについては、リビングくらしHOW研究所（2014）によると、女性（ $n=886$, $M=44.3$ 歳）の髪の長さは、ショートが27.9%、ミディアムが51.5%、ロングが20.7%となっており、ショートは年代が上がるにつれて増加し、ロングは年代が低いほど多い。また、ヘアカラーリングについては、セルフカラーも含めて6割を超える女性が行っており、年代別に見ると、20代以下で58%、30代で46.8%、40代で63.6%、50代で79.1%、60代で74.7%となっている。

ヘアスタイリングに関する心理学的研究

顔の印象は、髪型に影響される（森川、2012）ことが明らかになってきている。人々は印象管理の一環として、ヘアスタイリングを行っていることが推察される。しかし、ヘアスタイルによる顔の印象変化について客観的な研究は十分でない（武藤・富田・鎌田、2014）。数少ないヘアスタイリングに関する心理学領域の研究として、武藤・富田・鎌田（2012）は、髪の毛の分け目の位置の違いによる印象の変化を検討し、分け目の位置がセンターに近いほど女性的、センターから離れるほど男性的であることを明らかにしている。さらに、武藤・富田・鎌田（2013）は、髪の毛の分け目の位置だけでなく、パートラインの方向が、顔印象に大きく影響することを明らかにしている。また、武藤・森川・富田・野村（2014）は、シニョン（おだんご髪型）の位置や梳かした髪の毛の方向の違いによる印象の変化を検討し、正面顔だけでなく横顔の印象にも影響を与えることを見出している。金子・門脇（2001）は、男性の髪型の違いによる印象への影響を検討し、髪の毛の長さの相違により異なる印象を与えることを明らかにしている。

また、ヘアカラーに関する研究として、三枝・渡邊（2014）は、どのような髪色でも平均的に似合うとされる顔は魅力が高く、メイク感が強い顔であることを報告している。森岡（2015）は、髪色と長さが第一印象に及ぼす影響について、3種類の髪の毛の長さ（ロング・ミディアム・ショート）と3種類の髪の毛の色（金髪・茶髪・黒髪）の組合せの女性の写真を提示し、その印象の違いを検討している。その結果、髪の毛の長さと同じでも色によって印象は変わり、また同じ色でも髪の毛の長さによって印象が異なることを明らかにした。その他、中川・朴（2015）は、平均顔を用いてヘアカラーの印象評価を行い、髪色により印象が異なることを、石原・大澤（2005）は、ヘアカラーの種類によるイメージへの影響を検討し、ヘアカラーの色味、明度、彩度の違いによって、イメージが異なることを明らかにしている。

このように、髪の毛の長さや色、分け目などの違いにより印象に影響を及ぼすことが明らかにされてきている。しかし、ヘアスタイリングに関する研究においては、上に挙げた通りヘアスタイルの印象に関する研究が中心であり、パーソナリティの特性との関連については余り検討されてきていない。ヘアスタイリングも広義において化粧であるが、同じ化粧の中のメイクアップに関しては、心理学的研究が非常に進んでおり、メイク行動とパーソナリティ特性の関連につい

でも数多く研究されている。例えば、自尊心が高いほど化粧品使用度が高くなる傾向（大坊, 1997）があり、化粧品に対する好意や肯定度、期待が高い「コスメフリーク型」の人は社会的スキルが高く、対人的緊張が低く、精神的に健康である（高橋・堀・岩男, 2000）ことなどが分かっている。メイクの違いによりパーソナリティ特性に違いがあることをふまえると、同じ化粧品であるヘアスタイリングも、ヘアスタイルの違いにより、パーソナリティ特性に違いがあると考えられる。

そこで本研究では、ヘアスタイルとパーソナリティ特性との関連について検討する。パーソナリティ特性については、TIPI-J（小塩・阿部・カトローニ, 2012）と価値観（宮城, 2007）を取り上げる。TIPI-Jについては、既存の複数のBig Five尺度の下位次元に共通した要素を10項目で測定できる。価値観については、様々な価値を示す80の単語から成る。前述の通り、ヘアスタイルとパーソナリティの関連については余り研究がされてきていないため、本研究ではこれら尺度と項目を探索的に用いる。また、ヘアスタイルに関する基礎的な情報を得るため、ヘアスタイルと関連のある美容室の利用状況についても調査をする。なお、本研究では、美容室の利用頻度が最も高い20代女性（リクルートスタイル, 2018）を、最もヘアスタイルに関心が高いと捉え、女子大学生を調査対象とする。

以上から本研究では、女子大学生を対象に女子大学生のヘアスタイルと美容室利用状況について、また、ヘアスタイル選好とパーソナリティ特性（TIPI-J、価値観）の関連について検討することを目的とする。

方 法

刺激作成 九島・齊藤（2015）により作成された原型顔刺激を用い、20種類のヘアスタイルのイラスト刺激を作成した。刺激作成に先立ち、現代女性のヘアスタイルについて数名の美容師と共に、複数のヘアカタログ（Web画像）を参考にヘアスタイルの分類を行った。その結果、現代女性のヘアスタイルは、20種類に分類できることが明らかになった。20種類のヘアスタイル分類方法及び刺激の作成条件は、以下の通りであった。第1に、髪の長さについて、ベリーショート（耳が出る長さ、以降、VSと表記）、ショート（耳が隠れる長さ、以降、Sと表記）、ミディアム（肩につく長さ、以降、Mと表記）、ロング（肩下の長さ、以降、Lと表記）、スーパーロング（胸下の長さ、以降、SLと表記）の5種類が設定された。第2に、前髪について、前髪有り（以降、Bと表記）、前髪無し（以降、NBと表記）の2種類が設定された。第3に、レイヤー（髪の表面に段が入っていること）について、レイヤー有り（以降、Lyと表記）、レイヤー無し（以降、NLyと表記）の2種類が設定された。上記3つの条件を組み合わせ、計20種類のヘアスタイルのイラスト刺激を作成した（Table 1）。なお、作成されたイラスト刺激は、誌面の関係上、ベリーショートで前髪有り、レイヤー有り（VSBly）のヘアイラストのみ提示する（Figure 1）。

Table 1 ヘアスタイルの分類方法および刺激の作成条件

	レイヤー有り Ly		レイヤー無し NLy	
	前髪有り B	前髪無し NB	前髪有り B	前髪無し NB
ベリーショート VS	VSBly	VSNBly	VSBNLy	VSNBNLy
ショート S	SBLy	SNBly	SBNLy	SNBNLy
ミディアム M	MBLy	MNBly	MBNLy	MNBNLy
ロング L	LBLy	LNbly	LBNLy	LNBNLy
スーパーロング SL	SLBly	SLNBly	SLBNLy	SLNBNLy



Figure 1 提示刺激；ベリーショート・前髪有り・レイヤー有り (VSBLy)

調査方法 集合形式の質問紙調査を実施した。

対象者 女子大学生100名 ($M=19.96$ 歳・ $SD=.80$) であった。

刺激 事前に作成した20種類のヘアスタイルの顔刺激を使用した。20種類のイラストを各縦450ミリ×横300ミリのサイズとし、A4用紙に縦5つ、横4つ、計20種類を貼付けて提示した。並び順は、Table 1の通りであった。

評定項目

1. ヘアスタイルの選択：提示したヘアスタイル刺激 (20種) の中から、①自分のヘアスタイルに近いイラストを1つ選択、②好きなヘアスタイルを3つ選択、③嫌いなヘアスタイルを3つ選択するように求めた。
2. ヘアスタイルと美容室の利用状況について：髪の長さや色、美容室での施術内容、利用頻度などについて回答を求めた。
3. パーソナリティ尺度：小塩他 (2012) の日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 10項目 (Table 5) について、全く違うと思う1～強くそう思う7までの7件法で回答を求めた。
4. 価値観について：宮城 (2007) の80個の単語 (Table 9) について、大切だと思うもの上位3つを選択するよう求めた。

結 果

1. ヘアスタイルについて

1-1 髪の長さ

髪の長さについて回答を求め (Figure 2)、 χ^2 検定を行ったところ、有意な人数比率の偏りが見られた ($\chi^2=48.10$, $df=4$, $p=.01$)。

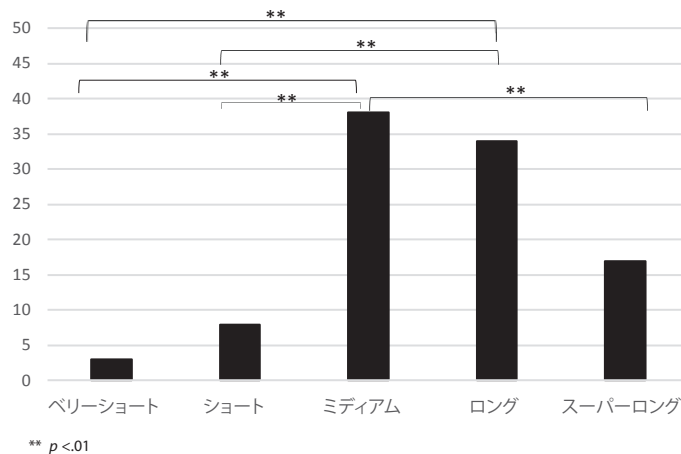


Figure 2 髪の長さ別人数比率 (%)

1-2 髪の色

髪の色について回答を求め (Figure 3)、 χ^2 検定を行ったところ、有意な人数比率の偏りが見られた ($\chi^2=65.35$, $df=5$, $p=.01$)。

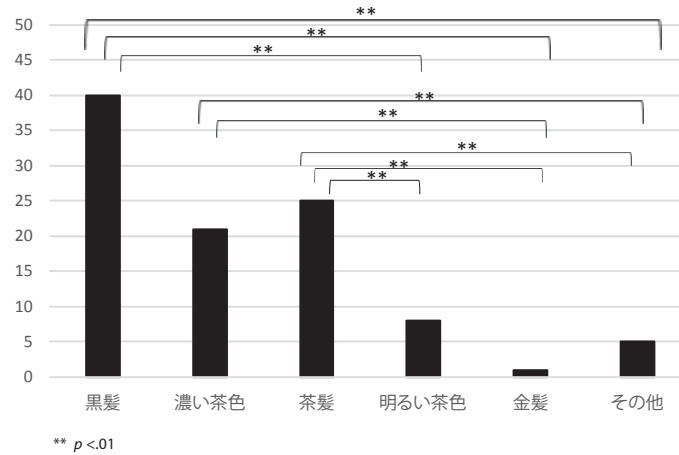


Figure 3 髪の色別人数比率 (%)

2. ヘアスタイル選好

2-1 ヘアスタイル

現在の自分のヘアスタイルについて、提示された20種類のヘアスタイルイラストの中から、自分のヘアスタイルに近いヘアスタイル1つを選択するように求めた (Table 2)。 χ^2 検定を行ったところ、有意な人数比率の偏りが見られた ($\chi^2=189.20$, $df=19$, $p=.01$)。

自分のヘアスタイルに近いヘアスタイルとして選択されたのは、ロングヘアで、前髪有り、レイヤー無しスタイル (LBNLy) が23名で最も多く、次いでミディアムヘアで、前髪有り、レイヤー無しスタイル (MBNLy) が22名、3番目はスーパーロングで、前髪有り、レイヤー無しスタイル (SLBNLy) が14名であった。いずれも、前髪有りで、レイヤーは入っていないことが明らかになった。

Table 2 類似したヘアスタイルとして選択されたヘアスタイル

[ヘアスタイル]	レイヤー有り Ly		レイヤー無し NLy					
	前髪有り B	前髪無し NB	前髪有り B	前髪無し NB	前髪有り B	前髪無し NB		
ベリーショート VS	VSBLy	2	VSNBLy	1	VSBNBLy	1	VSNBNBLy	1
ショート S	SBLy	0	SNBLy	0	SBNBLy	4	SNBNBLy	2
ミディアム M	MBLy	6	MNBLy	1	MBNBLy	22	MNBNBLy	2
ロング L	LBLy	12	LNBLy	2	LBNBLy	23	LNBNBLy	2
スーパーロング SL	SLBLy	4	SLNBLy	0	SLBNBLy	14	SLNBNBLy	1

2-2 好きなヘアスタイル

好きなヘアスタイルについて、提示された20種類のヘアスタイルイラストの中から、上位3スタイルを選択するように求めた。集計の際には重みづけをするため1位は3点、2位は2点、3位は1点とした (Table 3)。 χ^2 検定を行ったところ、有意な人数比率の偏りが見られた ($\chi^2=670.75$, $df=19$, $p=.01$)。

好きなヘアスタイルとして選択されたのは、1位はロングヘアで、前髪有り、レイヤー無しスタイル (LBNLy) が106点 (18.1%) でもっと多く、2位はスーパーロングで、前髪有り、レイヤー無しスタイル (SLBNLy) が91点 (15.5%)、3位はミディアムヘアで、前髪有り、レイヤー無しスタイル (MBNLy) が87点 (14.8%) であった。上記類似ヘアスタイルと同様の3スタイルが好きなヘアスタイルであることが明らかになった。

Table 3 好きなヘアスタイルとして選択されたヘアスタイル

[好きなヘアスタイル] %	レイヤー有り Ly				レイヤー無し NLy			
	前髪有り B		前髪無し NB		前髪有り B		前髪無し NB	
ベリーショート VS	VSBLy	4.80	VSNBLy	1.40	VSBNLy	.90	VSNBNLy	.90
ショート S	SBLy	2.40	SNBLy	.50	SBNLy	10.20	SNBNLy	3.00
ミディアム M	MBLy	7.30	MNBLy	2.70	MBNLy	14.80	MNBNLy	.00
ロング L	LBLy	5.80	LNBLy	2.00	LBNLy	18.10	LNBNLy	1.00
スーパーロング SL	SLBLy	6.00	SLNBLy	1.70	SLBNLy	15.50	SLNBNLy	1.00

2-3 嫌いなヘアスタイル

嫌いなヘアスタイルについて、提示された20種類のヘアスタイルイラストの中から、上位3スタイルを選択するように求めた。集計の際には重みづけをするため1位は3点、2位は2点、3位は1点とした (Table 4)。 χ^2 検定を行ったところ、有意な人数比率の偏りが見られた ($\chi^2=754.28, df=19, p=.01$)。

嫌いなヘアスタイルとして選択されたのは、1位はベリーショートで、前髪無し、レイヤー無しのスタイル (VSNBNLy) が135点 (22.72%)、2位はベリーショートで、前髪無し、レイヤー有りのスタイル (VSNBLy) が99点 (16.67%)、3位はスーパーロングで、前髪無し、レイヤー有りのスタイル (SLNBLy) が54点 (9.90%) であった。いずれも、前髪無しのヘアスタイルであることが明らかになった。

Table 4 嫌いなヘアスタイルとして選択されたヘアスタイル

[嫌いなヘアスタイル] %	レイヤー有り Ly				レイヤー無し NLy			
	前髪有り B		前髪無し NB		前髪有り B		前髪無し NB	
ベリーショート VS	VSBLy	3.19	VSNBLy	16.67	VSBNLy	4.37	VSNBNLy	22.72
ショート S	SBLy	1.34	SNBLy	8.75	SBNLy	.00	SNBNLy	4.20
ミディアム M	MBLy	2.02	MNBLy	5.55	MBNLy	.50	MNBNLy	2.86
ロング L	LBLy	1.17	LNBLy	3.53	LBNLy	.33	LNBNLy	1.68
スーパーロング SL	SLBLy	2.86	SLNBLy	9.09	SLBNLy	1.17	SLNBNLy	7.91

3. 美容室の利用状況について

3-1 美容室の利用頻度

美容室の利用頻度について回答を求め (Figure 4)、 χ^2 検定を行ったところ、有意な人数比率の偏りが見られた ($\chi^2=82.82, df=6, p=.01$)。

美容室を2~3か月に一度利用している人 (36名) が36%と最も多く、美容室に行っていない人は100名中1名で、美容室利用率は99%であることが明らかになった。

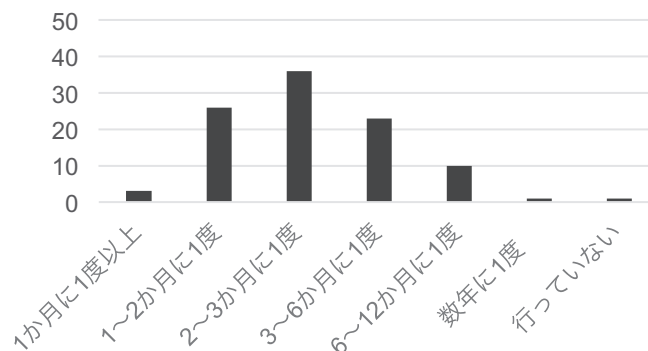


Figure 4 美容室の利用頻度 (%)

3-2 美容室で受けているサービス（メニュー・施術）について

美容室で受けているサービス（メニュー・施術）について回答を求め（Figure 5）、 χ^2 検定を行ったところ、有意な人数比率の偏りが見られた（ $\chi^2=184.21$, $df=7$, $p=.01$ ）。

美容室において最も多くの人を受けているサービスがカット（97名）、次いでトリートメント（55名）、カラー（53名）をであることが明らかになった。

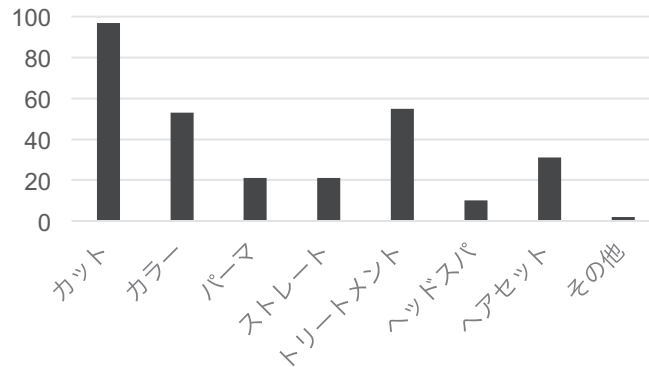


Figure 5 美容室で受けているサービス（メニュー・施術）内容 (%)

3-3 美容室での使用金額

美容室で一度に使う金額について回答を求め（Figure 6）、 χ^2 検定を行ったところ、有意な人数比率の偏りが見られた（ $\chi^2=44.76$, $df=7$, $p=.01$ ）。美容室での支払い金額は、3,000～5,000円（22名）が最も多く、次いで、7,000～10,000円（21名）、10,000～15,000円（21名）となった。

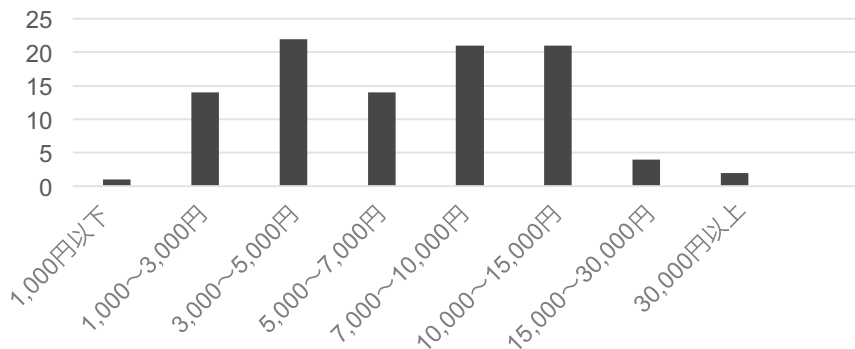


Figure 6 美容室での利用金額 (%)

4. ヘアスタイルの違いによるパーソナリティ（TIPI-J、価値観）の違い

4-1 ヘアスタイルの違いによるパーソナリティ（TIPI-J）の違い

ヘアスタイルの違いによるパーソナリティの違いについて検討するために用いられた TIPI-J 尺度10項目の記述統計を示す（Table 5）。なお分析に際しては小塩他（2012）と同様の5因子とし、各尺度2項目ずつの平均値で分析を行った。

Table 5 パーソナリティ (TIPI-J) の項目と記述統計

		最小値	最大値	<i>M</i>	<i>SD</i>
1. 活発で、外向的だと思う	外向性	1	7	3.69	1.76
2. 他人に不満をもち、もめごとを起こしやすいと思う	協調性 R	1	6	2.74	1.39
3. しっかりしていて、自分に厳しいと思う	勤勉性	1	7	3.35	1.55
4. 心配性で、うろたえやすいと思う	神経症傾向	1	7	5.25	1.47
5. 新しいことが好きで、変わった考えをもつと思う	開放性	1	7	4.21	1.60
6. ひかえめで、おとなしいと思う	外向性 R	1	7	4.14	1.63
7. 人に気をつかう、やさしい人間だと思う	協調性	1	7	4.65	1.07
8. だらしくなく、うっかりしていると思う	勤勉性 R	1	7	5.20	1.30
9. 冷静で、気分が安定していると思う	神経症傾向 R	1	7	3.66	1.34
10. 発想力に欠けた、平凡な人間だと思う	開放性 R	1	7	4.77	1.38

R：逆転項目

4-1-1 前髪の有無によるパーソナリティ (TIPI-J) の違い

自分のヘアスタイルの前髪の有無によるパーソナリティの違いを検討するため、*t*検定を行った結果、5つのパーソナリティのいずれも前髪の有無による違いは見られなかった (Table 6)。

Table 6 前髪の有無におけるパーソナリティの記述統計

	外向性		協調性		勤勉性		神経症		開放性	
	前髪有り	前髪無し	前髪有り	前髪無し	前髪有り	前髪無し	前髪有り	前髪無し	前髪有り	前髪無し
<i>n</i>	88	12	88	12	87	12	88	12	88	12
<i>M</i>	2.78	2.71	3.98	3.79	2.01	2.42	3.76	4.04	2.68	3.04
<i>SD</i>	1.50	1.81	.92	.92	1.15	1.18	1.03	.92	1.22	1.32

4-1-2 レイヤーの有無によるパーソナリティ (TIPI-J) の違い

自分のヘアスタイルのレイヤーの有無によるパーソナリティの違いを検討するため、*t*検定を行った。その結果、5つのパーソナリティの内、開放性 ($t(98) = 1.98, p < .05$) のみレイヤーの有無による違いは見られ、レイヤーが入っている人の方が開放性が高いことが明らかになった (Table 7)。

Table 7 レイヤーの有無におけるパーソナリティの記述統計

	外向性		協調性		勤勉性		神経症		開放性	
	レイヤー有	レイヤー無	レイヤー有	レイヤー無	レイヤー有	レイヤー無	レイヤー有	レイヤー無	レイヤー有	レイヤー無
<i>n</i>	28	72	28	72	28	71	28	72	28	72
<i>M</i>	2.70	2.81	4.07	3.91	2.21	1.99	3.96	3.73	3.11	2.57
<i>SD</i>	1.80	1.43	1.00	.88	1.32	1.09	.93	1.05	1.38	1.15

4-1-3 髪の長さによるパーソナリティ (TIPI-J) の違い

自分のヘアスタイルの髪の長さによるパーソナリティの違いを検討するため、髪の短い群 (VS, S) と長い群 (M, L, SL) に群分けをし、*t*検定を行った。その結果、5つのパーソナリティの内、開放性 ($t(97) = 2.23, p < .05$) のみ髪の長さによる違いは見られ、髪が短い人の方が開放性が高いことが明らかになった (Table 8)。

Table 8 髪の長短におけるパーソナリティの記述統計

	外向性		協調性		勤勉性		神経症		開放性	
	短い	長い	短い	長い	短い	長い	短い	長い	短い	長い
<i>n</i>	11	88	11	88	11	87	11	88	11	88
<i>M</i>	3.18	2.73	3.82	3.98	2.36	2.01	3.36	3.84	3.50	2.64
<i>SD</i>	1.93	1.49	1.12	.89	1.31	1.15	.98	1.02	.89	1.24

4-2 ヘアスタイルの違いによる価値観の違い

ヘアスタイルの違いによる価値観の違いについて検討するために用いられた、価値観80項目の記述統計を示す (Table 9)。80項目の内、価値を感じる項目上位3つの回答を求めたため、集計の際には重みづけをするため1位は3点、2位は2点、3位は1点とした。また、本調査において選択されていない項目があったため、分析に際し除外した項目は33項目、分析した項目は47項目であった。

Table 9 価値観の記述統計

	<i>M</i>	<i>SD</i>		<i>M</i>	<i>SD</i>		<i>M</i>	<i>SD</i>		<i>M</i>	<i>SD</i>
1 誠実さ	.17	.59	21 気持ち	.22	.69	41 携帯電話	.04	.32	61 自分磨き	.07	.36
2 道徳	.02	.20	22 効率	.01	.10	42 テレビ	.00	.00	62 友だち	.32	.77
3 信頼	.13	.51	23 マナー	.17	.66	43 インターネット	.01	.10	63 スポーツ	.05	.36
4 伝統	.00	.00	24 安心感	.21	.67	44 車/バイク	.00	.00	64 精神的な自由	.09	.52
5 自己実現	.02	.14	25 愛	.27	.75	45 ファッション	.00	.00	65 自己表現	.02	.20
6 信仰	.00	.00	26 社会的地位	.00	.00	46 クールさ	.00	.00	66 教養	.05	.33
7 ルール	.03	.22	27 組織	.00	.00	47 健康	.29	.75	67 ライフワーク	.00	.00
8 秩序	.02	.20	28 安定性	.11	.55	48 体力	.02	.20	68 夢	.04	.32
9 社会奉仕	.00	.00	29 名誉	.00	.00	49 若々しさ	.00	.00	69 未来	.01	.10
10 福祉	.00	.00	30 ステイタス	.00	.00	50 清潔さ	.12	.52	70 目標	.06	.35
11 政治参加	.00	.00	31 センス	.08	.47	51 向上心	.03	.30	71 お金	.71	1.08
12 洞察力	.00	.00	32 運動	.00	.00	52 家族	.79	1.22	72 財産	.04	.28
13 創造力	.02	.20	33 在宅	.00	.00	53 両親	.00	.00	73 不動産	.00	.00
14 自主性	.07	.39	34 都会生活	.00	.00	54 子ども	.00	.00	74 自立	.09	.43
15 協調性	.07	.36	35 自然との共生	.00	.00	55 パートナー	.06	.35	75 影響力	.00	.00
16 客観性	.01	.10	36 エコロジー	.00	.00	56 教育	.03	.30	76 権力	.00	.00
17 自分らしさ	.41	.89	37 やすらぎ	.04	.24	57 故郷	.00	.00	77 人望	.03	.22
18 チャレンジ精神	.05	.30	38 新しさ	.00	.00	58 自由な時間	.51	1.01	78 人脈	.05	.36
19 統率力	.00	.00	39 優しさ	.15	.52	59 知的関心	.04	.24	79 プライド	.00	.00
20 論理性	.00	.00	40 パソコン	.00	.00	60 遊び	.11	.49	80 学歴	.00	.00

4-2-1 前髪の有無による価値観の違い

自分のヘアスタイルの前髪の有無による価値観の違いを検討するため、*t*検定を行った結果、マナー ($t(97) = .97$, $p < .01$) において、前髪が有る人の方が高い得点を示した。また、愛 ($t(97) = 1.34$, $p < .001$) においても前髪が有る人の方が高い得点を示した。その他の価値観についてはいずれも前髪の有無による違いは見られなかった。

4-2-2 レイヤーの有無による価値観の違い

自分のヘアスタイルのレイヤーの有無による価値観の違いを検討するため、*t*検定を行った結果、自立 ($t(97) = 1.32$, $p < .05$) において、レイヤーが無い人の方が高い得点を示した。また、自主性 ($t(97) = 1.84$, $p < .10$)、チャレンジ精神 ($t(97) = 1.69$, $p < .10$)、愛 ($t(97) = 1.81$, $p < .10$)、精神的な自由 ($t(97) = 1.84$, $p < .10$) において、レイヤーが無い人の方が高い得点傾向を示した。その他の価値観についてはいずれもレイヤーの有無による違いは見られなかった。

4-2-3 髪の長さによる価値観の違い

自分のヘアスタイルの髪の長さによる価値観の違いを検討するため、*t*検定を行った結果、安心感 ($t(97) = 1.12$, $p < .01$)、愛 ($t(97) = 1.29$, $p < .001$)、お金 ($t(97) = 4.66$, $p < .001$) において、髪が長い人の方が高い得点を示した。また、家族 ($t(97) = 1.94$, $p < .10$) について、髪の長い人の方が高い得点傾向を示した。その他の価値観についてはいずれも髪の長さによる違いは見られなかった。

考 察

本研究は、女子大学生を対象に女子大学生のヘアスタイルと美容室利用状況について、またヘアスタイル選好とパーソナリティ特性（TIPI-J、価値観）の関連について検討することを目的とした。

1. ヘアスタイルについて

ヘアスタイルに関する基礎的な情報を得るため、髪の長さや髪の色をたずねた。その結果、長さは、ミディアム以上の長い髪が多く、ショートスタイルは少数であることが明らかになった。髪色については、黒髪をはじめとする明度の低い、暗い髪色が多いことが明らかになった。すなわち、本研究での対象者、女子大生においては、暗い髪色のロングヘアが大半を占めていることが示唆された。ヘアスタイルに高い関心を持っている世代の女性は、言わば流行にも敏感であると考えられる。そのため本研究の調査対象であった女子大学生の多くが同様のヘアスタイルをしていたものと推察された。

2. ヘアスタイル選好について

20種類のヘアスタイルイラストを提示し、それらの中から現在の自分のヘアスタイルに近いもの、また、好きなヘアスタイル、嫌いなヘアスタイルについて選択を求めた。その結果、現在の自分のヘアスタイルと好きなヘアスタイルの上位3スタイルは同じで、いずれもミディアム以上の長い髪、前髪有り、レイヤー無しのヘアスタイルであることが明らかになった。一方、嫌いなヘアスタイルの上位3スタイルは、いずれも前髪無しのヘアスタイルであることが明らかになった。これらのことから、ヘアスタイルの選好には、髪の長短、前髪の有無、レイヤーの有無が影響していることが示唆された。

3. 美容室の利用状況について

美容室の利用状況については、美容室の利用頻度、美容室で受けているメニュー、使用金額についてたずねた。その結果、頻度、メニュー、金額の全てにおいて、有意な人数比率の偏りが見られたが、ヘアスタイルの違いによるこれら美容室の利用状況の違いは見られなかった。その一因としては、本研究の対象者であった女子大学生の大半が、暗い髪色で長い髪であったため、ヘアスタイルの違いによる差が出にくかったものと推察された。

4. ヘアスタイルの違いによるパーソナリティの違い

ヘアスタイルの選好には、前髪の有無、レイヤーの有無および髪の長短が影響していることが示唆されたため、全20種類のヘアスタイルを前髪の有無、レイヤーの有無、髪の長短にそれぞれ分類し、それらの違いによりパーソナリティや価値観の違いがみられるのかを検討した。

その結果、前髪の有無によるパーソナリティの違いは見られなかったが、価値観に関しては前髪が有る群の方が、マナーと愛を重視していることが明らかになった。パーソナリティに違いが見られなかった要因として、前髪の有無の人数比率が挙げられる。本研究において前髪有りの人は88名、前髪無しの人は12名で、人数の偏りが大きく、パーソナリティは勿論、価値観についても差が出にくかったものと推察された。

レイヤーの有無について、パーソナリティに関しては、レイヤーが入っている人の方が開放性が高いことが明らかになった。価値観については、レイヤーが無い人の方が自立を重視し、また、自主性、チャレンジ精神、愛、精神的な自由についてもレイヤーが無い人の方がこれらの価値を重視している傾向が示された。まず、価値観で差（の傾向）があった項目は、愛を除き全80項目の中でも「独立」をイメージさせる共通した項目がみられ、レイヤーの無いヘアスタイルの人は、独立的な人であると解釈された。次に、パーソナリティにおいてレイヤーの有無で差が見られた開放性は、レイヤー有りの人で開放性が高いことが示されたが、価値観において差が見られた項目はいずれも、レイヤー無しの人において得点が高かった。特に、チャレンジ精神、精神的自由などは、パーソナリティの開放性と方向性が近いと考えられるため、結果には矛盾が見られた。レイヤーの有無に関しては、前髪の有無や髪の長短に比べて、レイヤーの有無による人数の偏りがそれほど大きくなかったことから、レイヤーの有無だけの影響ではなく、前髪の有無や髪の長短との

組み合わせによる影響が推察された。

髪の長短について、パーソナリティに関しては、髪が短い人の方が開放性が高いことが明らかになった。価値観については、髪が長い人の方が、安心感、愛、お金を重視していることが明らかになり、また家族についても髪の長い人の方が重視している傾向を示した。髪の短い人が開放性が高く、一方、髪の長い人が安心感に価値を置くというこの結果は、上記レイヤーの結果とは異なり、整合性があるものと推察された。

このように、パーソナリティに関しては、開放性のみには差が示された。開放性の高かったヘアスタイルは、レイヤー有り、短い髪、いずれも本研究では少数派であり、本研究の対象者の中では一般的ではない非凡なヘアスタイルと言うこともできる。開放性は、平凡ではなく個性的であることから、非凡なヘアスタイルとの親和性が高く、結果に結びつきやすかったものと推察された。

以上、前髪の有無、レイヤーの有無、髪の長短により、パーソナリティや価値観の一部に違いが見られることが明らかになった。

今後の課題と展望

本研究では、女子大学生のヘアスタイルの傾向、美容室の利用状況など、ヘアスタイルに関する基礎的情報を得ることができた。また、女子大学生のヘアスタイル選好とパーソナリティ、価値観との関連について、ヘアスタイルの違い、特に、髪の長短、前髪の有無、レイヤーの有無によって、パーソナリティと価値観の一部の違いがみられることも明らかになった。

しかし、本研究で明らかにできたことは限定的であり、一般化するのは難しい。今後の課題として、第1に、対象者の人数の増加である。設問数に対して対象者の人数が十分であったとは言いがたい。第2に、対象者の年齢の拡張である。本研究では女子大学生が対象であり、同一傾向のヘアスタイルをしていることが明らかになった。これは、前述した通り女子大学生が流行に敏感なため、流行しているヘアスタイルにする傾向が高く、同一のヘアスタイルになるということが考えられた。また、同年代で生活スタイルなどが似ている集団は、似たヘアスタイルを好むということも考えられる。そのため、ヘアスタイルにより、パーソナリティなどの違いが出にくかったものと推察された。第3に、パーソナリティや価値観の尺度や項目について、精査する必要がある。特に価値観は、本研究では、選択されなかった単語もあった。調査を重ね、尺度化等をしていくことが必要と考える。

ヘアスタイリングの研究は、始まったばかりである。研究を積み重ねていくことが求められる。本研究がその礎の1つとなり得たら幸いである。

引用文献

- 大坊郁夫 (1997) 対人魅力の形成にかかわる顔の構造的特徴と化粧行動の影響の研究 コスメトロジー研究報告
 インターワイヤード株式会社 (2017) 「ヘアスタイル」に関するアンケート <http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2017/170412/> (November 30 2018)
- 石原久代・大澤香奈子 (2005) 若年女性の肌色とヘアカラーのコーディネート要因について 名古屋女子大学紀要 51, pp.1-10.
- 金子智栄子・門脇幹雄 (2001) 外見の印象—髪型が性格のイメージに及ぼす影響 日本教育心理学会総会発表論文集 43(0), 35.
- 九島紀子・齊藤勇 (2015) 顔パーツ配置の差異による顔印象の検討 立正大学心理学研究年報, 6, 35-52.
- リビングくらしHOW 研究所 (2014) 美容室についてのアンケート (2014年/全国) <https://www.kurashihow.co.jp/markets/7020/> (November 30 2014)
- マックラケン グラント (1998) ヘア・カルチャー—もうひとつの女性文化論 成実弘至 (翻訳) PARCO 出版
- 宮城まり子 (2007) ひとりで学ぶ成功をつかむための自己分析—自分らしさを最大限に生かす 河出書房新社
- 森川和則 (2012) 顔と身体に関連する形状と大きさの錯視研究の新展開：化粧錯視と服装錯視 心理学評論, 55, 3, pp.348-361.
- 森岡陽介 (2015) 髪色と長さが第一印象に及ぼす影響 人間文化研究所紀要 <http://www.myschedule.jp/jpa2015/img/>

figure/90821.pdf (November 30 2018)

- 武藤祐子・森川和則・富田知子・野村弘平 (2014) シニヨン (おだんご髪型) による横顔の錯視と印象変化 日本顔学会誌 Vol.14, No.1 pp161.
- 武藤祐子・富田知子・鎌田正純 (2012) 髪の毛の分け目による顔印象変化の一考察 2 日本顔学会誌 Vol.12, No.1 pp122.
- 武藤祐子・富田知子・鎌田正純 (2013) 髪の毛の分け目による顔印象変化の一考察 3 日本顔学会誌 Vol.14, No.1 pp209.
- 武藤祐子・富田知子・鎌田正純 (2014) 髪の毛の分け目が顔印象と美容師の視線パターンに及ぼす影響：評価用紙法と視線解析法の比較 日本顔学会誌 Vol.14, No.1 pp61-69.
- 中川登紀子・朴映宣 (2015) 平均顔を用いたヘアカラーの印象評価 日本顔学会誌 Vol.15, No.1 pp84.
- 小塩真司・阿部晋吾・カトローニ ピノ (2012) 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 21, 1, 40-52. (November 30 2018)
- リクルートライフスタイル (2015) 【美容センサス2015年下期】《美容行動編》http://hba.beauty.hotpepper.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/2_census_kodo_201512.pdf (November 30 2018)
- リクルートライフスタイル (2017) 【美容センサス2017年下期】《美容への意識》http://hba.beauty.hotpepper.jp/wp/wp-content/uploads/2017/12/census_ishiki_201712.pdf (November 30 2018)
- リクルートライフスタイル (2018) 【美容センサス2018年上期】《美容室・理容室編》15~69歳男女の美容室・理容室の利用に関する実態調査 http://hba.beauty.hotpepper.jp/wp/wp-content/uploads/2018/06/A_hair_census_201806.pdf (November 30 2018)
- 三枝千尋・渡邊克巳 (2014) 髪色と顔の「似合い」と魅力度：自己評価と他者評価 日本感性工学会論文誌 Vol.13, No.1, pp.253-258, 2014.
- 高橋良子・堀洋道・岩男征樹 (2000) 化粧の心理学的効果に関する基礎研究：化粧習慣と精神的健康度との関係について 教育相談研究, 38, 33-41.